

2025 年度 グローバル法学科

小 論 文

〔自己推薦 A O (A)〕 14-02

注 意

1. 監督者の合図があるまで問題冊子は開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙のきめられた箇所に記入してください。

次の文章を読み、下記の問1～問3に答えなさい。

国際政治において文化交流、文化摩擦など「文化」の関係が問題となるのは、今日の国際政治関係の主要な主体である国民国家が政治的・文化的な構成体であることと、現代の国際関係に新しく登場してきた国家以外の主体の多くもまた文化的な存在であることによる。加えて、テクノロジーの発展が、西欧に発生した国際社会を全世界に拡大すると同時に、その内部における部分間の接触をかつてないほど密接なものにすることによって、文化の相違をいっそう重要な要素に変えたことも大きな原因である。

専門的な定義はさておき、一般的には「文化」はコウキョウ^①二様の捉え方をされている。狭い捉え方は、各社会特有の行動様式（スタイル、パターン）やその意味、およびその産物（とくに伝統的な知的・芸術的遺産）を文化とみなし、広い捉え方は、人間が生きるために作り、伝えた生活の工夫のすべてを文化とするものである。単純にいいかえると、前者の捉え方では、文化は政治、経済のジョウヨ^②ないし補完物となり、後者の捉え方では、文化が政治、経済を内包することになる。

さて、文化交流はこれまで国家の公的機関によって、対外政策として意図的、計画的、組織的に行われるものとみなされるのが普通であった。国家間の外交関係の一部として、あるいは狭義の外交の補完的手段として行われる文化交流がほとんどだったのである。国際社会が拡大して、文化の異質性、多様性を意識せざるをえなくなってから、ごく最近に至るまで、文化の異質性は外交の円滑^③な遂行を妨げる雑音と捉えられ、その障害を取り除く手段として文化交流事業が採用されてきたわけである。

文化交流の主要な形態には、①留学生、学者の交換などの知的・人的交流、②音楽、美術、演劇、伝統芸能などの芸術交流、③印刷物、放送、映画などを媒体^④とする情報交流があり、最近では、④技術協力を文化交流事業として推進する国も現れている。（中略）各国は相互に文化協定を締結^⑤して文化交流を推進しているが、多角的な文化交流も、1919年に知的協力委員会*が設けられて以来試みられており、現在では、1946年に発足したユネスコ（国連教育科学文化機関）を中心に行われている。

このように文化交流事業が盛んに行われるうちに、文化交流に関する理念的整理も試みられるようになった。戦前には、一方的な自国の政策宣伝という国家主義的な観点から行われ、文化侵略、文化帝国主義**と反発されるケースも多かったが、戦後になって、文化

交流は国家間、国民間の友好の指標あるいは協調関係の最後の保証とされると共に、国際的相互理解や友好親善の増進、人類の福祉と世界平和への寄与などが唱えられるようになった。そうした効果が期待されるならば、文化交流は総合的な安全保障のイッカン^③をなす可能性をももつことになる。

しかし、戦後の文化交流は国際主義的になったとはいえ、国家・政府が事業主体となって相手国国民に対して行うものはやはり一方通行的になることを免れない。その場合、文化の捉え方も狭く、また、「進んだ文化」から「遅れた文化」に与える教化という観念からも脱し切れていない。ところが、今日では、テクノロジーの発展、とくに国際的コミュニケーション手段の発達の結果、公的機関によって制御されえない大衆レベルの多種多様の文化交流が大規模に進行している。最近では、民間グループの「草の根」における国際交流活動がとりわけ目立つようになっている。公的機関、民間機関が自覚的に行っている限定的な文化交流が、ほとんど自然発生的な無制限の文化的接触の現象に呑み込まれる状況である。そこにおいては、従来のように、文化を狭く捉えたり、文化に優劣を想定したりすることはもはや不可能である。(中略)

最近の国際社会のこのような文化的状況に応じて、あらためて必要になったのが異質文化間の接触にともなう生じる葛藤^④、軋轢、紛争など、いわゆる文化摩擦の考察である。「文化摩擦」とは、最近日本の学界の中から生み出された言葉で、一応「異質の文化が接触したときにセイキするいざこざ^④」と定義されている。文化摩擦という際の文化も、狭義と広義の両様に捉えられる。狭義に捉えて、政治的、経済的な関係において文化の異質性ゆえに生じる誤解、曲解を文化的摩擦とみなし、その原因の解明と除去に努めることも重要であろう。しかし、国際社会が拡張の極限に達し、飽和状態になった中で異質の文化が絶えず接触する今日においては、文化を広く捉える観点と文化相対主義***の視点に立つて、文化摩擦現象を究明する必要がある。個人、コミュニティー、ナショナル、インターナショナルのすべての次元において発生している文化接触（狭義の文化交流を含む）と、それに起因する文化摩擦のメカニズムを解明することが、人類文化、各個別文化の将来、さらには国際社会の統合の問題を見とおすためにも有意義であろう。

(平野健一郎「文化交流と文化摩擦」高坂正堯・公文俊平編『国際政治経済の基礎知識〔新版〕』有斐閣ブックス(1993)所収。一部改変)

* 知的協力委員会 国際連盟専門機関の1つ。国際的な文化事業を所管し、ユネスコの前身となった。

** 文化帝国主義 ある国の文化を別の国に押しつける行為や、そのような方針・考え方のこと。

*** 文化相対主義 文化間に優劣や善悪はなく、1つの文化の価値基準で他の文化を判断することは慎むべきという考え方のこと。

問1 下線①～④のカタカナについては漢字を、下線㉑～㉒については漢字の読みを書きなさい。

問2 筆者が指摘する、かつての文化交流と最近の文化交流との違いを、特に文化交流の主体と行い方に言及しつつ、200字以内で要約しなさい。

問3 「文化交流」とそれによって生じる「文化摩擦」について、筆者の考えを参考に、自らの意見を書きなさい。